

第279回鳥取県内水面漁場管理委員会

- 1 日時 令和2年3月16日（月）午後1時30分から
- 2 場所 駅パル倉吉 多目的ホール
- 3 出席者：安藤会長、寺崎委員、竹内委員、絹見委員、水谷委員、川原委員、
事務局：平野事務局長、岸本事務局次長、吉村書記
鳥取県：水産振興局水産課 丹下係長、吉田主事
鳥取県栽培漁業センター 田中研究員

4 議事

- (1) コイヘルペスウイルス病の蔓延防止に係る委員会指示について（協議事項）
- (2) 第五種共同漁業権魚種の増殖目標量について（協議事項）
- (3) その他

<議事経過及び結果について>

事務局長による開会の宣言、会長による挨拶の後、会長が議事録署名人として寺崎委員、竹内委員を指名した。

議事

(1)コイヘルペスウイルス病の蔓延防止に係る委員会指示について(協議事項)

〔原案に同意する旨可決された。〕

委員会事務局が資料に沿って説明した。

〔安藤会長〕

2年前から全県一円についてのコイの移動を禁止するというような形の内容になっています。昨年と同じ内容で、指示の期間表示だけ異なるというものですけれども、御異議がないようですので、案のとおり指示をしてください。

(2)第五種共同漁業権魚種の増殖目標量について(協議事項)

〔原案に同意する旨可決された。〕

委員会事務局が資料に沿って説明した。

〔安藤会長〕

溪流魚についてですが、そこにイワナとかヤマメとか前はアマゴという単語がありましたけど、それは今はないので、アマゴは削除しています。だから、溪流魚の魚種としては、主たるがヤマ

メ、イワナですけれども、ニジマスも河川によって、時期によって随時放流する可能性があるので、文字としては残していますが、アマゴは削除されています。

湖山池のワカサギは令和2年度もやっぱり200万粒をという努力目標なんですかねえ。

〔吉村書記〕

はい。努力目標ですが、卵が購入できるかどうか分からないというのは聞いています。卵を購入して放流したとしても、3月後半や4月になると気温が高くなってきて、また卵をふ化させたとしても他の魚に食べられてしまうということも聞いていますので、見通しが見つからない状況です。

〔水谷委員〕

ブラックバスやブルーギルも入ってますからね。かなり水温が上がってしまってるのも1つあって、魚自体が弱ってるところに、そういう大型魚種に食べられることで、かなり減ってるっていうのは聞いてます。

〔安藤会長〕

今その湖山池は塩分調整を行ってますね、5,000ppmまでを目標で調整して、水門操作してますけども、近年の栽培漁業センターが行っている定置網漁獲結果を見ると、ブラックバス、ブルーギルは全く生息できない、入っていない状況なんですね。塩分濃度が高いために、純淡水魚は住めなくなってるっていう状況なので、だから、ワカサギの発眼卵を入れたところで、恐らく死滅するかと思いますね。2,000ppmから5,000ppmの間で、今は調整してますけども、それでは恐らくふ化しない。増殖指針を決めてないのは、その辺の安定に入るまでは目標量を決められないので設定しなかったと。

〔吉村書記〕

設定してないです。

〔安藤会長〕

今後その辺の推移を見ていくと、そのワカサギとかシラウオの増殖目標量をどうするかというのが大きな問題になると思います。

〔川原委員〕

東郷池でワカサギの増殖計画をされるみたいなんですけど、東郷池には生息していますか。

〔絹見委員〕

ワカサギですか。ちょっとよく分かりません。2か所で増床はしているが、川自体が大分変わって、去年増床したところが全くできず、あまり整備されていなかったみたいで、草がぼうぼう

で、もうとつてもできるような状況じゃない。また、もう1か所は今年は場所変えてみたが、ワカサギは、恐らく見たことはないかもしれない。

スズキが入って食べちゃうからね。セイゴも多いからね。

暑いのもあるかもしれんし。ワカサギは西からどこら辺に繁殖しているのか。

〔安藤会長〕

西のほうはもう全然駄目ですか。繁殖はしとらんですか。

〔水谷委員〕

水温が高いというようなこともあります。たしか宍道湖に抜ける水門のルート通ったりはあったと記憶してるんですけど。

〔岸本次長〕

境水道でも獲れますからね。

〔水谷委員〕

一応生息する塩分濃度は可能なんです。本質は川で、淡水の域出て、海行って、また川に戻ってきて産卵するという。

〔安藤会長〕

東郷湖漁協さんの産卵床造成は、淡水域にワカサギの産卵場所を確保しようということでしょうね。

〔水谷委員〕

増床されてるのは東郷湖に流入している河川ですよ。塩分濃度が違いますからね。

〔絹見委員〕

湖山池にしても東郷湖にしても塩分は必要ですよ。どうしてもアオコが出たりします。

〔岸本次長〕

東郷池の場合は、大きな流入河川がありますよね。湖山池のほうはほとんど入ってくる河川がない。

〔絹見委員〕

ダムができたりねえ、そんなに水路は。

〔岸本次長〕

ないですか。

〔絹見委員〕

あんまりです。

〔水谷委員〕

でも、とりあえず3河川あります。

〔水谷委員〕

湖山池は流入河川があっても細い筋です。そこにコイが集まるんですからね。

〔竹内委員〕

この前新聞に載ってました。鳥取大学の先生だったと思いますけど、湖山池の水質汚染というか、塩分濃度が高すぎると。トンボなんか絶滅してしまっただけ。

〔安藤会長〕

湖山池モニタリング会議っていうのがあって、ヒシやアオコの増殖を止めるための塩分濃度まで上げたほうがいいという地域の住民からの要望が強く、湖山池の塩分濃度を水門を操作しながら高めています。湖山池漁協さんも少し塩分濃度上げたほうがいいということでそういう取組みに入ったんですけども。その中で、鳥取大学の先生が昆虫類とか生態全般の現状を問題視しておられる。

〔竹内委員〕

昆虫も最終的には魚の餌ですのでね。それが無くなっていくのはなかなか難しいです。

〔川原委員〕

塩分濃度がすごい下がると、あっという間にアオコが広がるじゃないですか。

〔安藤会長〕

湖山池では今は無くなりましたよね。今はきれいです。臭いもないし。

そういう状況の中で、湖山池の増殖目標を今後どうやって設定していくかっていうのがまた大きな問題だと思います。今は全部しじみ漁に変わって、すごい量揚げてますけれども、例えば、湖山池漁協さんが今後しじみ漁に切り替えると、増殖目標はしじみ漁で出すんですか。

〔平野事務局長〕

しじみは第一種漁業権なんで、ここは第五種で。

[安藤会長]

第五種になりますね。漁協さん自体としてももう、魚を対象とした漁業は行なわず、もうしじみ一本でいくような。

[岸本次長]

もうフナやコイ獲っても引き取ってくれるところもないですし、やっぱりシジミの方が金額は上がるということです。

[安藤会長]

これはどこかで見直すんですか。今までやってきたコイ、フナ、ワカサギ、シラウオ、エビという増殖魚種は、今後見直す可能性があるんですか。

[平野事務局長]

今度の漁業権免許のときには見直しいたします。年ごとの増殖目標量については、湖山池の場合は5年で、10年ごとに出している指針に基づいてやっていきますので、現実的には今言われたとおり、そぐわないところもあるんですけども、一応それは生かしていくというところです。この漁業権魚種の見直しについては、漁業権魚種を1つでも落とそうとすると、漁協が漁業権に入れておいてくれということが非常に強かったんです。ただ、漁業権というのは権利であり、併せて今の増殖義務というのもありますから、漁業権に含める含めないということが重要ではなく、実態に即した形の中で有効活用していくために、漁業権魚種としてこれを増殖し、守っていく必要があるのかどうかという観点で、漁業権免許の時期には議論する必要があると思っています。

[安藤会長]

じゃあ、どうでしょう。その令和2年度の目標量は、これでよろしいでしょうか。ではお願いをさせていただきます。

(3) その他

[安藤会長]

皆様の方から話題としてあげておいたほうがいいと思われるようなことがありましたら、出していただけたらと思います。今年の河川はどうでしょうか。

[寺崎委員]

千代川は、アユの早期小型放流を若桜、八東、船岡、用瀬、何カ所か試験的に広げています。そうしますと定着が良く、かかりがいいということもあるようです。小さいのでキロ数が、匹数がたくさん入れることができるということもあって、水温がそれに適したと思われる時期に、日にちを決めて早期放流の計画をしています。去年八東で早期放流したところが最初から釣果がよかったというのもあり、結構大きくはなっていたというようなこともありました。冷水病の関係も

あるんですけど、どうも無菌のアユを入れるとその心配も割と少ないようですけど、以前の話では、温くなってから入れると冷水病にかかる率が低いから、暖かくなって入れようという考え方もあったようですけども、智頭町はあまり冷水病の問題なく、養殖で無菌の状態のアユですから、いいような感じを受けて取り組んでおるところでございます。

[安藤会長]

日野川さんはどうでしょうか。

[竹内委員]

アユに関しては、去年の実績から考えると、岸本で大きなアユが結構獲れました。最終的に32、33センチになっています。日野川でも繁殖したりしているんでしょう。天然遡上が多少去年はありました。天然遡上があると放流した養殖のアユの動きもいいです。

江府や日野には放す余裕がなかったもので、今までとはあまり変わりません。

[安藤会長]

中流が多かったということですか、岸本の辺とか。

[竹内委員]

岸本から下流でよかったですね。今は日野川で魚道を下流から整備してもらってしまして、扇型魚道で米子から江府町の江尾までは上がってくる。あと武庫の新川平発電所にダムがあり、そこがまだ未完成でして、それが終わったら、恐らく相当上流まで上がれると思います。そこまで産卵場、扇形魚道を整備しております。

[安藤会長]

雪が少なかったからねえ、これからが心配なので。

[竹内委員]

大変なのは、この間もちょっと土木関係の会に出ましたが、一昨年とその前の大雨で、川がどこも支流から本流まで壊れてしまして、しかも土砂がたまっている、日本中全部だと思えますが、その堆積した土砂撤去がすごいです。大きな雨が降りますと、その関係で濁りが出てしまっていて、どうしようもない。何も憂いで言うわけにもなりません、工事だらけです。

[寺崎委員]

千代川も一緒です。まとめて業者の工事を持っていくみたいな形をどうもしているから、なかなか早くには終わらないです。工事延期でさらに。

[安藤会長]

そういう災害復旧のための河川工事とか、その堆積物の撤去とかは短期間集中的にやると、また濁りが出てくることになる。

結局濁りが出るっていうのは、石の表面を覆ってしまったら苔がつかなくなるということで、虫もつかなくなるということですよ。

〔水谷委員〕

天神川の場合は川そのものが変わってしまっています。地震の関係で土手に亀裂というか、大変ゆがみが入っているところもあって。

今現状そういう感じで、中流域から上流域にかけて、大幅な河川改修にかかっていますので、天然物が遡上しているさなかに、土砂濁りが出る。

〔安藤会長〕

産卵期だとか遡上期だとかの濁流の流入をちょっと遠慮してもらえませんかというような要望は。

〔寺崎委員〕

調整会議の中でやっています。そのときに厳しく言っています。

〔岸本次長〕

県が事務局をやって、国交省、市町村とか県の工事を全部調整する会議があります。

〔絹見委員〕

その県から水産課に話は来ますか。

〔丹下係長〕

一応調整会議の連絡は入るんですけども、年度の頭に水産課が中部総合事務所行って、皆さんの顔合わせの場にはいるんですけども、その後、月々一遍のそういう調整会議とかは漁協さん、現場の方にお任せしている。

〔岸本次長〕

それでこじれた場合、水産課も出向くことはありますけど。

〔寺崎委員〕

ただ困るのは、濁って被害があるかどうか分からないことです。アユは沈んで流れますからね。すごい濁り出されるときは証拠が何もなくて、やられ損のところがあるから。溪流魚は特に被害があると思われるけども、証拠がないものですから、補償もしてもらえないので、痛しかゆしです。

〔安藤会長〕

いろんな事情や状況があるんですね。その川の例えば濁水流入なんかについての苦情はどこかの場面で言ってもらいたいですね。工事関係者に配慮してほしいとか時期の問題だとかね。

〔竹内委員〕

協議会は私も参加していますのでね、一応河川に関するところでは、濁りが出そうなところとかは全部市町村の協議に上がってきます。

工事が始まる前に必要があると思ったら行って立ち会って、いろいろ注文をつけます。

〔安藤会長〕

そういうことも続けていかないと、私たちのこの会の意義はそこもあるでしょうから、単なる増やせだけじゃなく、川を守っていくということもあるでしょうから、今後ともお知恵や御意見を借りないけんと思います。他にないですか。

〔岸本次長〕

あと、調整規則の改正の状況ですけれども、当初は、法律の施行が今年の7月1日でずっと予定で来てたんですけども、遅れてまして、多分12月ぐらいまでずれ込むと思います。今現在調整規則の案をつくって、今、国と協議をしているところなんですけれども、法の施行に併せて調整規則も施行になるという関係で、12月の法施行に間に合うように、調整規則を9月ぐらいまでには公示したいというスケジュール感でもって進めておりますので、御承知いただければと思います。

〔安藤会長〕

分かりました。予定していた議題は、これで終わりです。事務局のほうにお返しします。

5 閉会

〔平野事務局長〕

以上で閉会いたします。どうもありがとうございました。

議長 会長

署名委員

署名委員